子供一人一人の心のふるさとづくりと開かれた学校づくりを求めて

山口県下松市立東陽小学校

1　はじめに

本校は，山口県下松市東部に新しく造成された久保団地の中央に位置しており，開校14年目の新しい学校である。校区は，古くからの切山地区と新興住宅地である東陽地区から成っているが，児童の95％は団地である東陽地区に居住している。現在は，児童数は514名，学級数16である。開校したころは，「自分たちの学校をゼロからつくるんだ。」という意識も高かった。しかし，保護者の多くが他の地域から転入している現在は，本校への愛着が薄くなってきているように思われる。歴史の浅い本校にあっては，開かれた学校づくりという点で施設の開放と情報提供という程度にとどまっており，地域に根ざした学校として，子供たちの夢と知恵をより豊かにはぐくんでいくために，地域・家庭・学校が互いの教育力をより高めていくことが必要である。

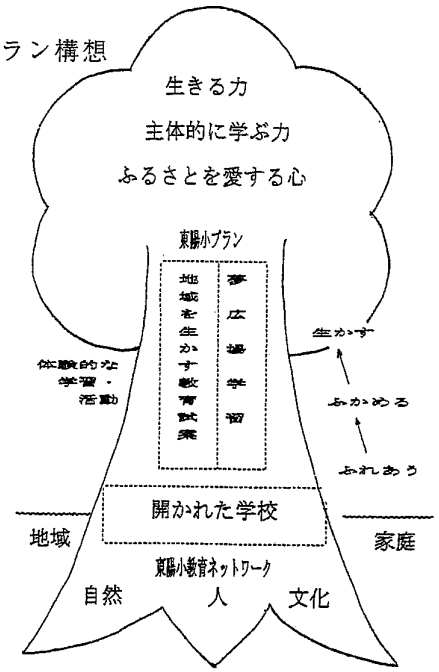
そこで本校では，平成９年度に県の地域を生かす教育グレードアップ事業のパイロット校の指定を受けたことを機に，研究主題を「子供一人一人の心のふるさとづくりと開かれた学校づくりを求めて」，副主題を「地域の自然や文化，人々とのかかわりを通して一人一人が生き生きと主体的に学ぶ」として研究・実践を進めてきた。

2　研究の構想

研究主題の解明のために，「教育課程の工夫」と「家庭・地域との連携」の二つの柱を立てて研究を進めてきた。「教育課程の工夫」の中では，〈地域の自然的環境，文化的環境，人的環境と積極的にかかわる活動を意図的，計画的に教育活動の中に位置付けていけば,そのかかわりの中でふるさとを愛し，生き生きと主体的に学ぶ子供が育つであろう〉という仮説のもとに，「東陽小プラン」として「地域を生かす教育試案」と「夢広場学習」（地域を生かす総合的な学習）を教育課程に位置付け実践を積み重ねてきた。

東陽小プラン構想は，右図の通りである。

東陽小プラン構想



3　東陽小プランの実践

(1)　「地域を生かす教育試案」

「地域を生かす教育試案」は，現行の教育課程の中で，地域の人々や自然，文化等の地域学習素材をどのように位置付け活用できるかを検討し，表にしたものである。この試案によって，どこでどのように地域素材を生かし活用できるかを認識し，計画的に実践できるようになった。

この試案の実践によって，地域に対する子供たちの意識も少しずつ高まり，地域の方々とのふれあいも深まってきた。しかし，このような学習を単発的に行うだけでなく，一つのテーマをもって，子供の願いや思いを生かしながら連続性と発展性をもった学習を展開しようとした時，また，社会に開かれた学校として環境や福祉等の今日的な課題を追究しようとした時，教科や道徳，特別活動等の枠に納めることは難しい場合も生じる。そこで，本校では地域を生かす総合的な学習として「夢広場学習」を設定した。

地域を生かす教育試案（３年）

月	教科・道徳	特別活動等	地域活用（人材活用等）例
4	○みんなのコミュニティーセンター（社会） ○お礼の手紙（国語）		・東陽コミュニティーセンターの見学 *東陽自治会（鈴木会長）
5	○学校のまわりのようす（社会）		・他の小学校の3年生
6	○市全体のようす（社会）		・他市の小学校 3年生
7			
9	○わたしたちのくらしと商店（社会） ○お礼の手紙（国語） ○読んでもらう相手を考えて（国語）	○運動会	・スーパートーヨー等東陽の商店の見学をする。 *スーパートーヨー（横田さん） ・お世話になった方（元関係者）や地域の方へ運動会の招待状を書く。
10	○お礼の手紙（国語） ○大きな駅前商店街	○社会見学	・運動会にきてくれた方や世話になっている地域の方へお礼の手紙を書く。 ・ｲﾄｰﾖｰ関係店、B立製戸工場見学 ・ｻﾞ・モール関係の方
11	○市の工場で作っているもの（社会）	○ウオークラリー	・地域の方、地域の公園 ・B立（学園等設立も可能）等の工場見学 ・東陽コミュニティーで電子ﾊﾟﾝ作り（ﾊﾟﾝ工場見学の代わり）
12			
1	○むかしをしらべる（社会）		・冬休みに昔の道具を探してきる。 ・老人クラブの方に昔の道具の使い方を教えていただく

「夢広場学習」の目標

子供の生活を取り巻く地域の自然や文化，人々などに目を向けて，その中から見付けた問題を追究する学習活動を，子供の願いや思いに沿って計画・展開し，身近な自然や文化，人々と直接かかわったり，働き掛けたりする体験的な活動を通して，主体的に学ぶ力を培うとともにふるさとを愛する心を養う。

(2)　「夢広場学習」の実践

低学年では，生活科を中心として身近な自然や人々と「ふれあう」，中学年では，地域を知り，地域について，自分なりの課題をもって調べ，追究し「ふかめる」，高学年では，地域について調べて分かったことや思ったことを表現したり，実践したりして「生かす」ことを中心としてテーマを設定した。

ア　４年生の実践　（総時数32時間）

テーマ「東陽・切山調査隊Ⅱ」

－自分たちの町を見つめ直そう－

４年生では，東陽・切山地区の自然環境や文化とのかかわりを通して課題を見付け，そのテーマを追究していく中で，自分たちの町を見つめ直すことをねらいとしている。

今年度のテーマ

１年・・東陽小ってたのしいな

２年・・東陽っていいな

３年・・東陽・切山調査隊Ⅰ

４年・・東陽・切山調査隊Ⅱ ～自分たちの町を見つめ直そう～

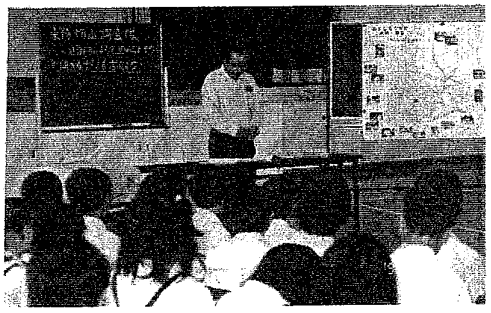
５年・・かがやけ東陽Ⅰ～住みよい町づくり～

６年・・かがやけ東陽Ⅱ～共に生きる町づくり～

1学期は，切山地区を中心として調査活動をした。切山地区には，歴史のある切山八幡宮をはじめ，切戸川，田や畑，山など豊かな自然が残っている。子供たちは，切山八幡宮や切戸川などで遊んだりする中で，調べてみたい多くの課題を見付けることができた。また，議題づくりに当たっては，切山地区の自治会長さんに，切山の今と昔や切山八幡宮の歴史など子供たちの探険だけではとらえられないような視点について話していただき，子供たちの追究の視点を広げることができた。

その後，調べたい課題ごとに学級を解体して，大きく「昔からあるもの」「生きもの」「切山八幡宮」の3グループに分かれて調査活動をした。「昔からあるもの」について調べるグループでは，道しるべや御旅所，厳島神社などについて調べ，まとめた。「生き物」について調べるグループでは，カニや川にな，やごなどの生物，数珠玉などの植物など自分が興味をもった生物や植物について調べた。「切山八幡宮」について調べるグループは，地域に居住し，地域の歴史に詳しい方に，切山八幡宮の歴史や祭事，切山歌舞伎などについて話をしていただき，調査活動を深めることができた。

2学期は，帖佐の対象を切山地区だけでなく，東陽地区も含めて課題ごとに更に小さいグループに分かれて調査し本にまとめている。このような体験的な活動を通して，自分たちの町を見つめ直すことによって，東陽・切山を心のふるさととして愛する気持ちも生まれてきている。



自治会長さんのお話を聞く

切戸川で生き物を見付ける

イ　6年生の実践　　テーマ　「かがやけ東陽Ⅱ－共に生きる町づくり－」（総時数36時間）

ここでは，地域で様々な活動や生き方をしている人々とのかかわりを通して，共に生きる町にするためにはどんなことを考え実践したらよいかを追究させることをねらいとしている。

1学期は，地域でボランティア活動に携わっておられる方の話を基にして，自分たちの課題づくりをした。学級を解体して，「幼児との交流」「障害のある方との交流」「高齢者との交流」の3グループに分かれて調査活動を行った。「幼児との交流」のグループでは，元幼稚園教諭で保護者の方から幼児との接し方や遊び方などについて話をしていただいた。「障害のある方との交流」グループでは，聴覚に障害のある方や視覚に障害のある方から話を聞いたり，社会福祉協議会の方に話を聞いたりした。また，実際にアイマスクや車椅子体験も行った。「高齢者との交流」グループでは，お年寄りの過ごしてきた時代の暮らしや遊びなどについて，老人クラブの方に聞き取り調査を行っている。その後，調査したことをまとめ，「中間発表会」で発表した。

2学期は，グループごとに活動計画を立て，様々なふれあいや調査などを行った。「幼児との交流」グループは，幼稚園訪問や園児の学校への招待，「高齢者との交流」グループは，老人クラブの方を学校に招待した。「障害のある方との交流」グループは，更に小グループに分かれて活動した。例えば，障害のある方への点字の手紙づくり，東陽の町や大型小売店での障害者のための施設調査，松星園（知的障害者福祉施設）の方々との交流，ゆたか園（福祉作業所）の見学・交流などである。それらの体験や調査活動を発表する会として「交流発表会」を行った。発表会では，保護者，ゲストティーチャーとしてこれまでの交流でお世話になった地域の方々を招いて，活動の様子や活動を通して考えたことを発表しあった。発表は，車椅子など実物の使用，パソコンによる提示，劇，ニュース番組，クイズ形式などもあり工夫されていた。3学期は，自分を振り返って自分の生き方を考えたり，これからの夢を語り合おうとしている。

これらの活動を通して，実際の体験によってはじめて学んだことも多くあったようである。子供たちは様々な人々と接していくことに，はじめはとまどいが見られたが，段々と自然にふれあうことができるようになり，障害のある人々に対する見方も変わってきたようである。再度，このような機会をもちたいという子供も出てきた。共に生きる町とはどういうことか，子供なりに考えることができたように思う。

老人クラブの方に聞く

幼稚園の園児とふれあう

4　おわりに

本校でこのような学習活動ができるのも地域や保護者の方々の協力があってこそである。本校では，学校・家庭・地域をつなぐ中核的組織として「東陽小教育ネットワーク」を組織している。この会は，地域の代表として，公民館長さんをはじめ，自治会長，老人クラブ会長さんなど13名，家庭の代表としてＰＴＡ会長さんをはじめ6名，学校側から7名の計26名で組織されている。現在，年3回の会をもち，年1回は，実際に授業に参加していただいたり，授業を観ていただいたりして，本校の教育について理解を深めていただいている。また，このような学校の学習計画についてもお話をし，理解と協力を得ている。

本校の「子供たちの心のふるさとづくりと開かれた学校づくり」は，まだまだ緒についたばかりであり，実践も試行錯誤を繰り返している。しかし，「夢広場学習」や地域を生かす教育試案の実践によって子供たちは地域の人々の温かさにふれ，地域の文化や歴史を知り，地域の自然にふれることができた。今後さらに，子供たちにとって東陽・切山がほんとうに心のふるさとになるよう，また，地域に根ざした開かれた学校になるよう研究を進めていきたい。